

「クロージングセレモニー」スワミジからのメッセージ

皆さんは、伊豆をインドのガンゴトリーのようにしてくれました。私は、インドの外に出たという気がしませんでした。皆さんの献身的に働く姿、誠実さ、正直さ、そういった姿を見て、私は誇りに思いました。バガヴァットギーターのチャンティングの仕方、その聴き方、そして質問の仕方や答え方、これは他でもない神様の栄光、聖なるものの顕れです。本当に素晴らしい姿で、皆さんはここにいて下さいました。マキ先生のおかげで家族のようにひとつになって、献身的にこの場を作り上げて下さいました。グルデブ・シヴァナンダの栄光がマキ先生を通して顕れていました。ここでは、マキ先生と皆さんの献身的な振る舞いが、シヴァナンダの教えに添った成熟したヨガ探求者のものであることが伝わってきました。

この体験を(私のグルである)スワミ・チダナンダに直接、お見せすることはできませんが、いつも私たち一人ひとりのハートの中にグルデブ・シヴァナンダとスワミ・チダナンダがおられます。ヨガへの献身というのは、グルや神の恩寵があって始めて可能になります。ヨガの道を進むのであれば、この肉体を去る最後の瞬間まで、その道をしっかりと歩んでその義務を果たさなければなりません。ですから、あらゆるときにヨギでいて下さい。

この伊豆での体験は、平和で美しく最高のものでした。すべてが完璧でした。リシケシのアシュラムでもこれ以上のものはないでしょう。自分の願ったものは、必ず実現します。ちゃんと天が見ていてくれます。いつも心が平和であれば、もうすでにそこに神があります。神が創ってくださった楽園、天国がここにあるのと同じです。ここはまさに天国以上のものであり、神が存在する場所になりました。

大勢の肉体がここにはありますが、ここで私たちはひとつに繋がった意識、ワンネス(Oneness)を感じました。このように、ひとつの意識で繋がっている人たちのいる所には決して争いはなく、そこは神のおられる場所、天国になります。このリトリートで私たちは、それを体験することができました。どうぞ、家に帰っても、この時のことを覚えていて下さい。自分の家族もひとつの意識として自分と繋がっていることを思い出して接してあげて下さい。それができて、はじめて自分のことをシヴァナンダの献身者であると言うことができます。

すべての宗教、すべての聖典、あらゆるヨガで言っていることは、“Be Good Do Good”です。そしてグルデブ・シヴァナンダは、“Teach by being”、理論として教えるのではなく、自分の存在で、人に教えなさいとおっしゃっていました。何をすべきか、何をすべきではないのかを、言葉で言う必要はありません。自分の存在と行動そのものが教えとなるような、そんな人でいて下さい。すべての生き物のために太陽や月は光を与えています。私たちの生き方も、そのようであって下さい。シヴァナンダの教えに従い、いつも幸せで、笑顔でいて下さい。

改めて、マキ先生が伊豆という所に私を招いて下さり、皆さんと共に過ごせたことに心から感謝しています。皆さん一人ひとりの思いやりの心から伝わってくるものには大変感激しました。皆さんがこのリトリートをこんなに素晴らしい会にして下さいました。天候にも恵まれ、私はとても快適でした。私に心のこもった美味しいお料理を作ってくくださったこと、私の話に皆さんが敬意と興味を持って熱心に耳を傾けて下さったこと、すべてに心から感謝します。本当にありがとうございました。